

2018年3月期第3四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2018年1月
大阪ガス株式会社

1

OSAKA GAS
GROUP

本日は、お忙しいところ、当社の決算電話会議説明会にご参加いただき、ありがとうございます。また、平素は当社事業につき、ご理解・ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。それでは、ただいまから2018年3月期 第3四半期決算について説明させていただきます。

最初に、足元の自由化の状況について説明いたします。

都市ガスについては、2017年12月末時点で30万件以上スイッチされており、これは大変大きな数字と認識しています。加えまして、家庭用以外の分野でも競合が激しくなっており、ガス事業が置かれた環境は大変厳しいものがあります。第4四半期以降も厳しい事業環境は継続すると考えています。

一方で、電力についても競合が激しくなっており、事業環境が厳しいことには変わりはありませんが、電力供給件数が2018年1月30日時点で約56万件となったことは、大きな成果であり、今後も継続して電力契約の獲得に努めてまいります。

次に、決算のポイントについて説明いたします。

I . 18.3期第3四半期実績

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

18.3期第3四半期決算のポイント I

対前年比較

■ 概況(連結)

売上高	ガス事業のスライド影響、電力販売量の増加等により、 前年比12.7%(1,021億円)増収の9,095億円
経常利益	ガス事業のスライド影響等により、 前年比15.4%(91億円)減益の503億円 スライド影響を除くと、家庭用ガス販売量、電力販売量の増加等により、 前年比13.9%(60億円)増益の494億円

■ ガス販売量(個別)

総販売量	前年比0.7%(43百万m³)増加の6,006百万m³
家庭用	気水温が低く推移したことによる給湯・暖房需要の増加等が、離脱等による減少を上回り、 前年比5.7%(69百万m³)増加の1,275百万m³
業務用等	発電設備の自社電源化や離脱等による減少があったが、設備稼働増や需要開発等による増加により、 前年並の4,731百万m³

■ 電力販売量(連結)

国内電力販売量	卸・小売の販売量が共に増加したことにより、 前年比23.3%(1,459百万kWh)増加の7,730百万kWh
---------	---

3ページをご覧ください。

2018年3月期 第3四半期は、前年から増収・減益の決算となりました。

売上高は、ガス事業におけるスライド影響や電力販売量の増加等により、前年と比べて12.7%増収の9,095億円となりました。

経常利益は、スライド影響等によるガス事業粗利益の減少等により、前年と比べて15.4%減益の503億円となりましたが、スライド影響を除きますと、家庭用ガス販売量、電力販売量の増加等により、前年と比べて13.9%増益の494億円となりました。

ガス販売量について、総販売量は、前年を0.7%上回る60億600万立方メートルとなりました。

用途別に申し上げますと、家庭用は、離脱の影響がありましたが、気水温が低く推移した影響等から、前年を5.7%上回る12億7,500万立方メートルとなりました。

業務用等は、発電設備の自社電源化や離脱等による減少がありましたが、お客さま設備の稼働増加や需要開発が進んだこと等により、前年並の47億3,100万立方メートルとなりました。

連結の電力販売量は、卸・小売の販売量が共に増加したことにより、前年を23.3%上回る77億3,000万kWhとなりました。

18.3期第3四半期決算のポイントⅡ

18.3期通期見通しに対する進捗

通期見通しは2017年4月発表時から
変更ありません。

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 見通し	18.3期 3Q	18.3期 見通し	18.3期 3Q	
国内エネルギー・ガス	10,195	6,805	290	245	利益:家庭用ガス販売量の増加、スライド影響等により想定を上回って進捗
国内エネルギー・電力	1,670	1,080	140	132	利益:電力販売量の増加等により想定を上回って進捗
海外エネルギー	250	154	40	-19	利益:北米IPPの持分売却等により想定を下回って進捗
ライフ&ビジネスソリューション	2,085	1,476	190	129	利益:概ね想定通りに進捗
消去又は全社	-755	-421	22	10	
連結	13,445	9,095	682	499	利益:想定をやや上回って進捗

* セグメント利益＝営業利益＋持分法投資損益

4ページで、2018年3月期の通期見通しに対する進捗を、セグメント別に説明いたします。
国内エネルギー・ガスのセグメント利益は、家庭用ガス販売量の増加、スライド影響等により、想定を上回って進捗しております。

国内エネルギー・電力のセグメント利益は、電力販売量の増加等により、想定を上回って進捗しております。

海外エネルギーのセグメント利益は、北米IPPの権益売却に伴い損失が発生したこと等により、想定を下回って進捗しております。

ライフ&ビジネスソリューションのセグメント利益は、概ね想定通りに進捗しております。

セグメント利益全体では想定をやや上回って進捗していますが、ガス、電気の国内エネルギー事業は第4四半期が最需要期であり、気温の変動影響が大きく、その変動を見通すことが難しいこと等から、通期見通しの変更はおこなっておりません。

18.3期第3四半期販売関連実績

■ ガス販売

*ガス供給件数=取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数

	45MJ/m ³	A. 18.3期3Q	B. 17.3期3Q	A-B	(A-B)/B(%)
個	ガス供給件数(千件)*	6,028	6,234	-206	-3.3%
	新設工事件数(千件)	71	71	+1	+0.9%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	24.2	22.5	+1.7	+7.5%
別	家庭用	1,275	1,207	+69	+5.7%
	業務用等	4,731	4,757	-26	-0.5%
	ガス販売量合計(百万m ³)	6,006	5,963	+43	+0.7%
	連結ガス販売量	6,031	5,988	+44	+0.7%

■ 電力販売(連結)

	A. 18.3期3Q	B. 17.3期3Q	A-B	(A-B)/B(%)
小売	1,489	569	+921	+161.9%
卸等	6,241	5,703	+538	+9.4%
国内電力販売量(百万kWh)	7,730	6,271	+1,459	+23.3%
低圧電気供給件数(千件)	545	250	+295	+118.3%

■ お客さまアカウント(連結)

	A. 18.3期3Q	B. 17.3期4Q	A-B	(A-B)/B(%)
お客さまアカウント数(万件)	823	800	+23	+2.9%

5ページに、販売関連の実績をまとめております。

お客さまアカウントが2017年3月末時点から23万件増加し、823万件となりました。

ガス事業における離脱がありましたが、LPG事業の再編、ガス事業での新設、電力契約の獲得等により増加しました。

18.3期第3四半期実績 I

連結:億円、()内は連単倍率

	A. 18.3期3Q	B. 17.3期3Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.26) 9,095	(1.30) 8,074	+1,021	+12.7%	ガス事業のスライド影響、電力販売量増等
営業利益	(1.72) 485	(1.59) 599	-113	-19.0%	ガス事業のスライド影響等
経常利益	(1.38) 503	(1.17) 595	-91	-15.4%	ガス事業のスライド影響等
スライド影響除く 経常利益	494	433	+60	+13.9%	家庭用ガス販売量増、 電力販売量増等
四半期純利益*	(1.14) 316	(0.98) 394	-77	-19.7%	
* 親会社株主に帰属する四半期純利益					
EBITDA	1,159	1,240	-80	-6.5%	

	A. 18.3期3Q	B. 17.3期3Q	A-B	備考
スライド差損益	億円 9	161	-151	
原油価格*	\$/bbl 53.9	44.9	+9.0	* 18.3期3Q原油価格実績は、 12月速報値までの平均。
為替レート	円/\$ 111.7	106.5	+5.1	
連結子会社数	138	147	-9	

次ページには、決算数値をお示ししています。

18.3期第3四半期実績Ⅱ

連結:億円	18.3期 A. 3Q末	17.3期 3Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	18,575	17,319	18,865	-290	流動資産の減少等
自己資本	9,914	8,841	9,619	+295	
有利子負債	5,096	5,506	5,406	-309	
在籍人員(人)	20,257	21,014	20,762	-505	
自己資本比率	53.4%	51.0%	51.0%	+2.4%	
D/E比率	0.51	0.62	0.56	-0.05	
	A. 18.3期3Q	B. 17.3期3Q		A-B	備考
設備投資	587		582	+5	
減価償却費	659		632	+27	
フリーキャッシュフロー*	301		228	+72	

*フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

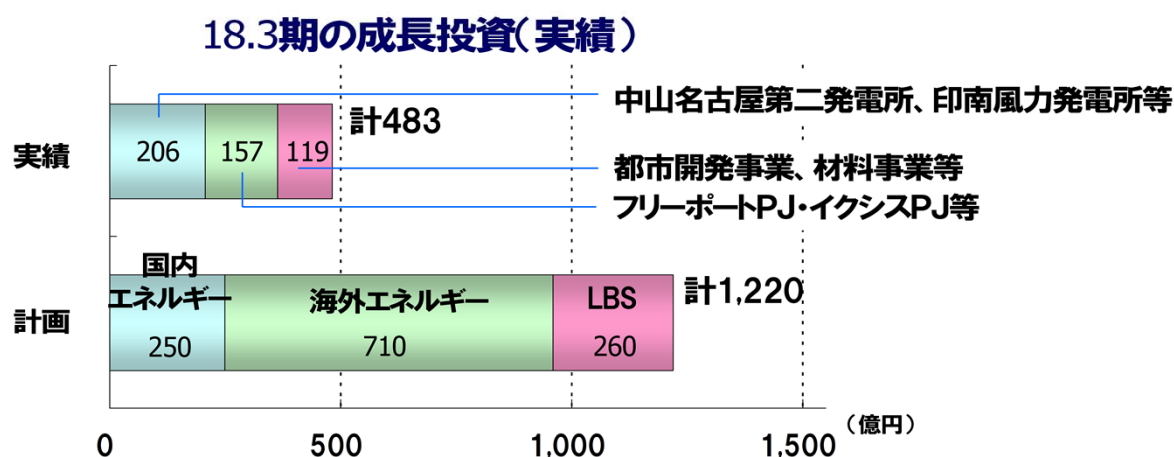
7ページには資産・負債項目、主な財務指標の実績をお示ししています。

18.3期第3四半期成長投資実績

■ 18.3期3Qの投資実行額は483億円(年間計画の40%)

- ・ 国内エネルギー：206億円 (主に発電所)
- ・ 海外エネルギー：157億円 (参画済み案件への継続投資)
- ・ ライフ&ビジネスソリューション：119億円 (主に都市開発事業、材料事業)

*投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。



8ページに、成長投資実績をお示ししています。

成長投資の実行額は483億円で年間計画に対して40%の進捗です。

内訳について、国内エネルギーは206億円で主に発電所への投資を、海外エネルギーは157億円で、参画済み案件への継続投資を、ライフ&ビジネスソリューションは119億円で、主に都市開発事業への投資を実施しました。

18.3期第3四半期セグメント実績

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました
「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 3Q	17.3期 3Q**	18.3期 3Q	17.3期 3Q**	
国内エネルギー・ ガス	6,805	6,216	245	376	売上:スライド影響等 利益:スライド影響等
国内エネルギー・ 電力	1,080	728	132	105	売上:電力販売量の増加等 利益:電力販売量の増加等
海外エネルギー	154	101	-19	-4	売上:ゴーゴンPJ等 利益:北米IPPの持分売却等
ライフ&ビジネス ソリューション	1,476	1,461	129	126	売上・利益:前年並
消去又は全社	-421	-434	10	3	
連結	9,095	8,074	499	607	

* セグメント利益＝営業利益＋持分法投資損益

** 17.3期3Q実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

9ページにはセグメント別実績をお示ししています。

10ページ以降には、売上高・経常利益について、前年差異の要因分析資料等をお付けしておりますので、後ほどご覧下さい。

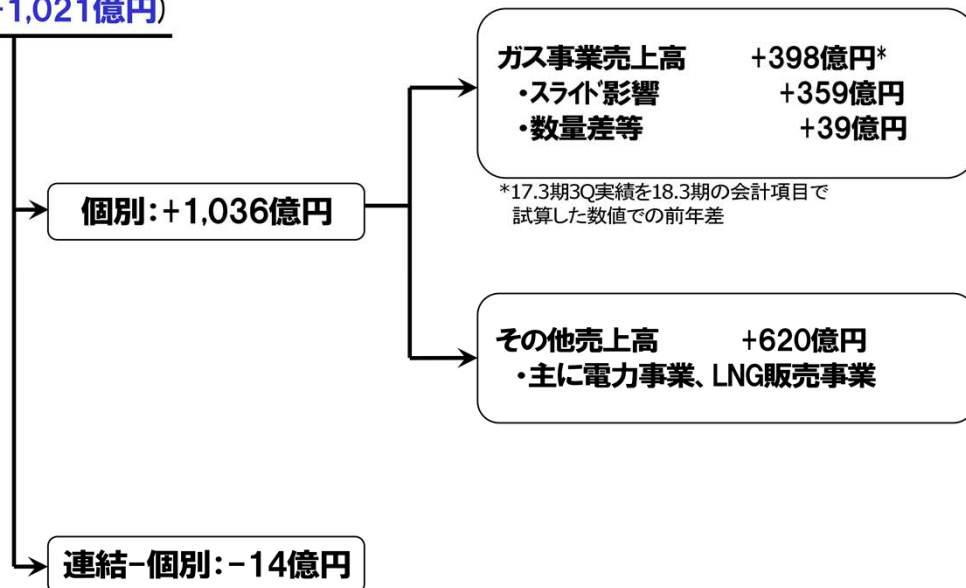
以上で、2018年3月期 第3四半期決算についてのご説明を終わらせていただきます。

Ⅱ. 参考資料 (1)

18.3期第3四半期売上高差異(対前期)

17.3期3Q → 18.3期3Q (差異)

8,074億円 9,095億円 (+1,021億円)



18.3期第3四半期経常利益差異(対前期)

＋の符号は利益への影響を表す。

17.3期3Q → 18.3期3Q (差異)

595億円 503億円 (-91億円)

個別:-144億円

ガス事業粗利 -140億円*
・スライプ影響 -151億円
・数量差等 +11億円

*17.3期3Q実績を18.3期の会計項目で
試算した数値での前年差

その他事業利益 +27億円
・主に電力事業

ガス事業費用減少 +2億円

営業外収支 -50億円
・受取配当金、工事負担金収入の減等

連結-個別:+52億円

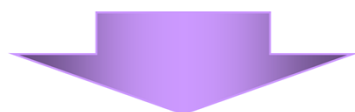
OGUSA -29億円
大阪ガス都市開発 +10億円
大阪ガスケミカル +7億円

*その他の主な差異要因は
グループ内配当消去の減少

家庭用 ガス販売

18.3期3Q実績

	対前期	備考
調定件数	-2.3%	
気水温影響	+8.8%	平均気温20.0度(対前期-0.8度)
その他	-0.8%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	+5.7%	



18.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

- 平年気温を前提とし、ガス機器の効率化、世帯人数の減少、離脱影響等を織込むことで、前年比+0.4%、8百万m³増の2,111百万m³を見込む。

業務用等 ガス販売

18.3期3Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.1%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.0%	
設備稼働増減	+1.7%	景気影響による稼働増等
個別要因	-2.2%	離脱、特殊要因等によるお客さま先での減少
その他	-1.2%	当社関係会社の発電設備の自社電源化等
合計	-0.5%	



18.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

- 発電需要の減少や当社関係会社の発電設備の自社電源化に伴うガス販売のカウント方法の変更影響などを織り込み、前年比-8.4%、552百万m³減の6,008百万m³を見込む。

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第4四半期以降の経常利益は-0億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第4四半期以降の経常利益は-8億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対して、18.3期の連結営業外収支が年間-4億円変動する可能性がある。

18.3期の主なトピックス

*プレスリリース実施月を記載

ガス ・ LPG

- 8月 液化石油ガス（LPG）卸売・小売事業を再編統合、新会社「エネアーク」設立
- 8月 日本初、I o T対応の省エネ給湯器「エコジョーズ」を発売
- 9月 通信を利用してお客さま宅を見守るサービス「みるぴこ」を発売
- 9月 川崎市扇島地区における都市ガス製造および供給の新会社設立

電力

- 9月 中山名古屋第二発電所（G & P）の営業運転開始
- 9月 千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化決定
- 1月 三重県松阪市におけるバイオマス発電事業への参画

海外

- 5月 タイ国Yokohama Tire Manufacturing 社向けオンサイトエネルギー供給プロジェクトの供給開始
- 11月 タイでバイオガス精製と天然ガス自動車燃料供給の商用実証開始
- 11月 Honda Automobile（Thailand）Co., Ltd.向けオンサイトエネルギー供給プロジェクトII期工事の竣工と供給開始

LBS

- 10月 株式会社アグニコンサルティングの全株式取得（オージス総研）

ESG

- 9月 ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックスに初選定



Ⅱ. 参考資料 (2) －18.3期見通し

2017年4月発表時の見通しから、変更ありません。

18.3期ガス・電力販売見通し

■ ガス販売量

45MJ/m ³		A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	家庭用	2,111	2,103	+8	+0.4%
	業務用等	6,008	6,560	-552	-8.4%
ガス販売量合計(百万m ³)		8,118	8,662	-544	-6.3%
連結ガス販売量(百万m ³)		8,150	8,694	-544	-6.3%

■ 電力販売量(連結)

(百万kWh)		A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
国内電力販売量		10,303	8,948	+1,355	+15.1%

18.3期見通し I

連結:億円		()内は連単倍率			
		A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高		(1.28) 13,445	(1.31) 11,838	+1,606	+13.6%
営業利益		(2.38) 665	(1.76) 972	-307	-31.6%
経常利益		(1.83) 640	(1.37) 962	-322	-33.5%
当期純利益*		(1.57) 425	(1.12) 612	-187	-30.6%
SVA**		175	333	-157	-47.4%
スライド差損益	億円	9	137	-128	
原油価格	\$/bbl	55.0	47.5	+7.5	
為替レート	円/\$	115.0	108.3	+6.7	

* 親会社株主に帰属する当期純利益

** SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

18.3期見通しⅡ

連結:億円	A. 18.3末見通し	B. 17.3末実績	A-B
総資産	18,429	18,865	-436
自己資本	9,455	9,619	-164
有利子負債	5,433	5,406	+26
在籍人員(人)	21,374	20,762	+612
自己資本比率	51.3%	51.0%	+0.3%
D/E比率	0.57	0.56	+0.01
設備投資	925	886	+38
減価償却費	859	862	-2
フリーキャッシュフロー*	819	1,005	-185
ROA	2.3%	3.3%	-1.0%
ROE	4.5%	6.6%	-2.0%
EBITDA	1,570	1,884	-314
EPS (円/株)	102.2	147.3	-45.1
BPS (円/株)	2,273.1	2,312.7	-39.5

株式併合影響を
考慮して算定

*フリーキャッシュフロー＝営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

18.3期セグメント別見通し

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました
「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 見通し	17.3期 実績**	18.3期 見通し	17.3期 実績**	
国内エネルギー・ ガス	10,195	9,112	290	552	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差益の減少等
国内エネルギー・ 電力	1,670	1,075	140	162	売上:電力販売量の増加等 利益:販売価格の下落等
海外エネルギー	250	226	40	80	売上:豪州LNG PJにおける増加等 利益:フリーポートPJ関連等で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	2,085	2,083	190	186	売上・利益: 概ね前年並みで推移
消去又は全社	-755	-659	22	9	
連結	13,445	11,838	682	990	

* セグメント利益＝営業利益＋持分法投資損益

** 17.3期実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

以 上